



# 教育相談センターだより

加古川市教育相談センター

平成29年10月号

\*\*\*\*\*

## 支援を求めている(SOSを発信している)児童生徒の割合

～ アセス「学級内分布票検討シート」の全学級集計結果から明らかになった本市の現状 ～

大津市でのいじめ事案を契機に全小中学校に導入したアセスも今年で5年目となり、結果を活用した“児童生徒の内面理解に基づく生徒指導”という考え方もずいぶん定着してまいりました。

アセスの結果は、子ども自身がどのように感じているかという「適応感」を測るものです。各因子40以下の子どもは非常に適応感が低く、教職員に「支援を求めている(SOSを発信している)子ども」と受け止めなければならないとされています。

今年度1回目(6月)のアンケート実施後、全学級の「学級内分布票検討シート」をご提出いただきました。その集計の結果、小学生3～6年生(回答者 9,590人)、中学生1～3年生(回答者 7,151人)の内、特に支援が必要な児童生徒が一定の割合で存在する現状が改めて明らかとなりました。

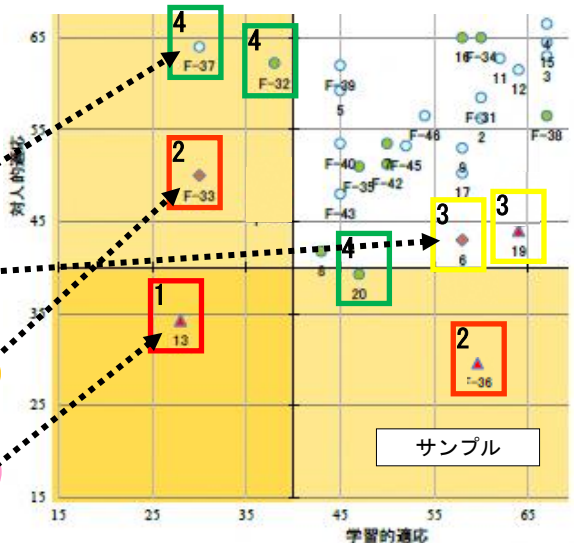
「クラスに支援を求めている子どもは必ずいる」という視点からの、内面理解に基づく生徒指導や教育相談活動の充実をさらに推進したいと思います。

### 棒グラフ(支援を求めている児童生徒の割合)の見方

棒グラフの色分け部分は、「学級内分布票」(右図)の要支援児童生徒の占める割合を示しています。

- 【重要度・緊急度4】※緑棒4の3名  
学習、対人、または両方が要支援領域だが、生活満足感が高い児童生徒
- 【重要度・緊急度3】※黄色棒3の2名  
学習、対人関係は適応領域だが、生活満足感が低い児童生徒
- 【重要度・緊急度2】※オレンジ棒2の2名 **最重要**  
学習、対人のどちらかが要支援領域で、生活満足感も低い児童生徒
- 【重要度・緊急度1】※赤棒1の1名 **最重要**  
学習、対人ともに要支援領域で、生活満足感も低い児童生徒

※要支援領域・・・数値が40以下で、適応感が非常に低い領域



### 全学級「学級内分布票検討シート」集計結果から判明したこと

**小学生全体 (3～6年)**  
 重要度・緊急度1の児童が0.9%いる。  
 重要度・緊急度2の児童が4.3%いる。  
 重要度・緊急度3の児童が7.7%いる。  
 重要度・緊急度4の児童が9.2%いる。

**男女別**  
 重要度・緊急度1の児童は、男子の方がやや多いものの、全体及びそれ以外の要支援生徒の割合は女子の方が多い傾向にある。

**学年別**  
 小学4年生の要支援児童は全体の25.9%で最も高く、低いのは小学5年生で19.1%。小学6年生と中学1年生は同傾向であった。

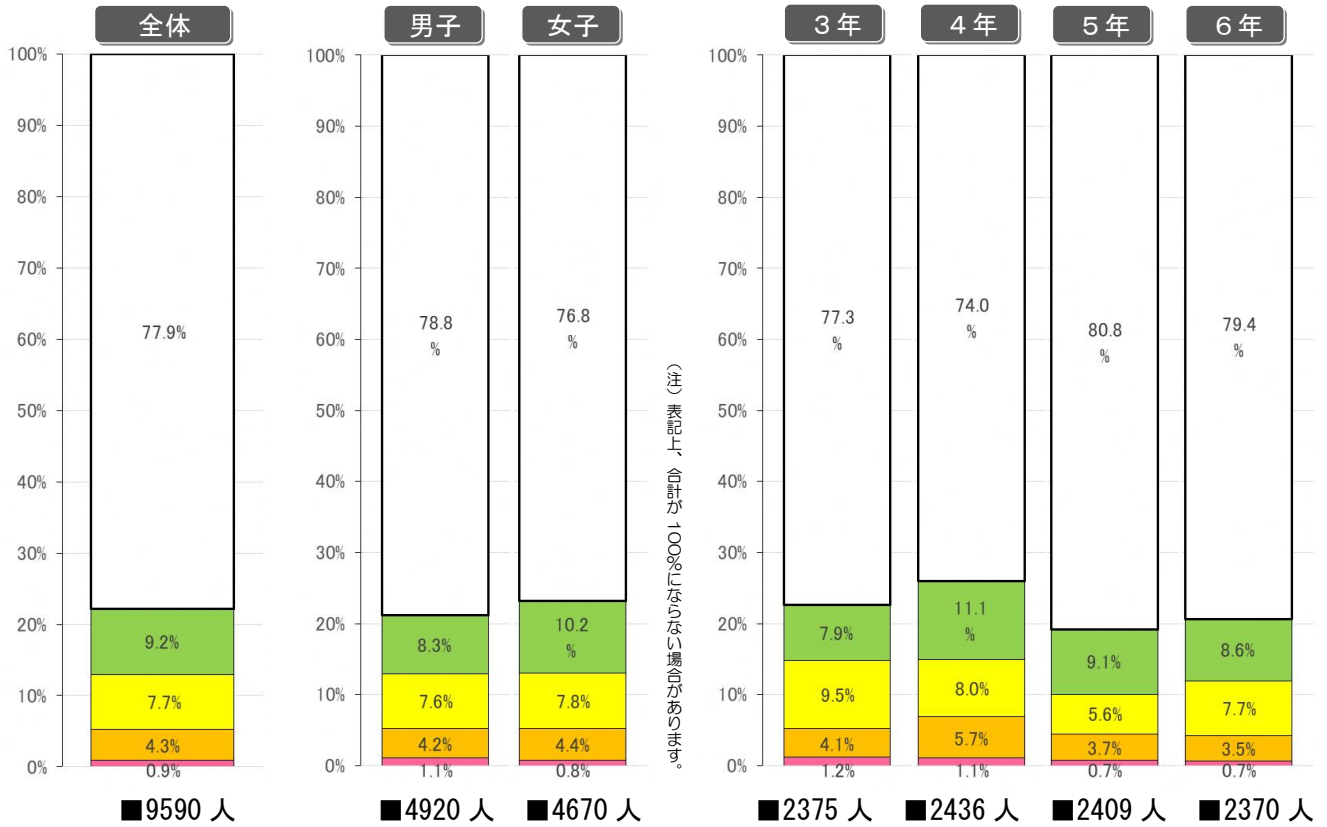
**中学生全体 (1～3年)**  
 重要度・緊急度1の生徒が0.4%いる。  
 重要度・緊急度2の生徒が3.9%いる。  
 重要度・緊急度3の生徒が6.9%いる。  
 重要度・緊急度4の生徒が12.4%いる。

**男女別**  
 重要度・緊急度1の生徒は、男子の方がやや多いものの、全体及びそれ以外の要支援生徒の割合は女子の方が多い傾向にある。

**学年別**  
 中学1年生の要支援生徒は全体で19.9%だが、2年生になると27.8%に大きく増加する。中学3年になると22.8%に低下する。

★特に【重要度1】【重要度2】の要支援児童生徒については、共通理解のもと、継続的な支援をお願いします。

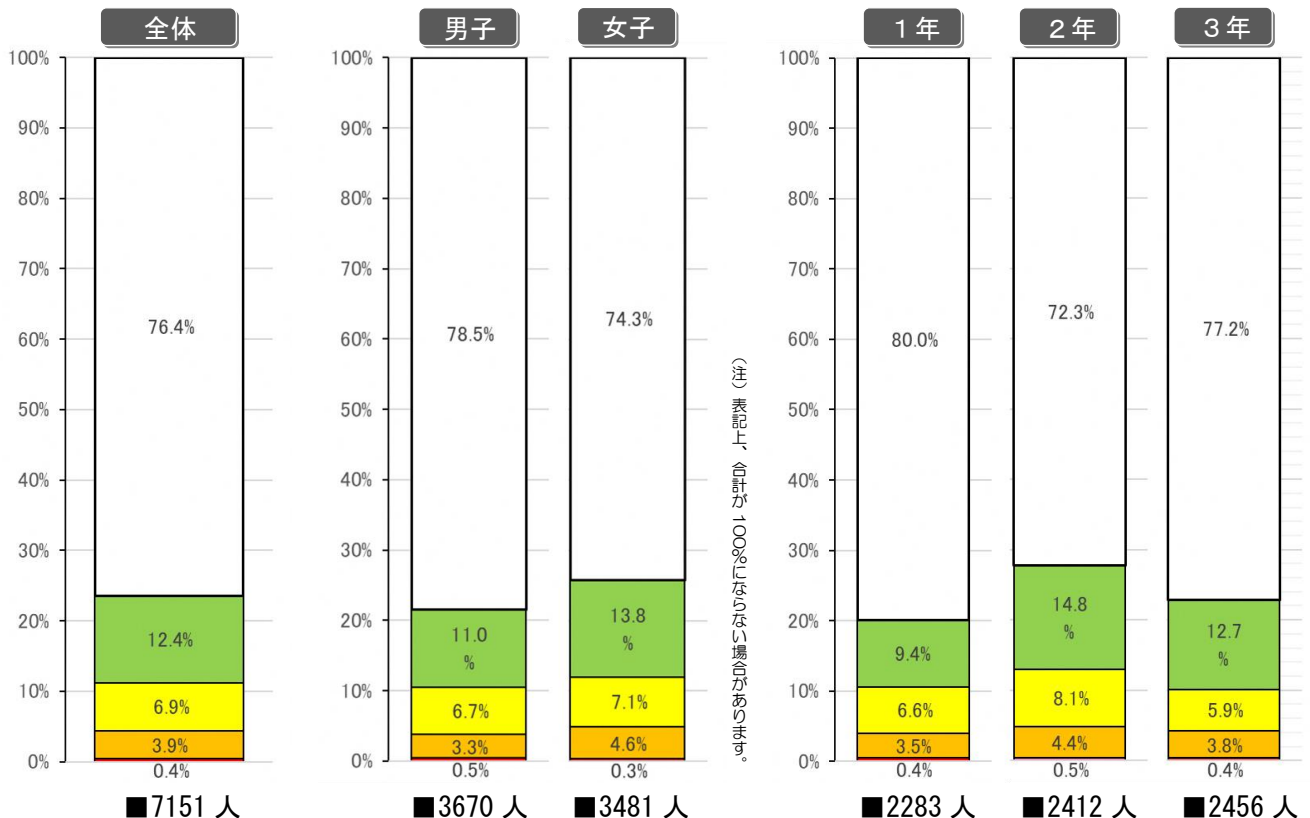
## 【小学生】 支援を求めている(SOSを発信している)児童の割合



**重要度・緊急度1の児童** 全体:90人 男子:53人 女子:37人 3年生:28人 4年生:27人 5年生:18人 6年生:17人

**重要度・緊急度2の児童** 全体:411人 男子:205人 女子:206人 3年生:97人 4年生:140人 5年生:90人 6年生:84人

## 【中学生】 支援を求めている(SOSを発信している)生徒の割合



**重要度・緊急度1の生徒** 全体:31人 男子:19人 女子:12人 1年生:10人 2年生:11人 3年生:10人

**重要度・緊急度2の生徒** 全体:279人 男子:120人 女子:159人 1年生:81人 2年生:105人 3年生:93人